

26年度

# 被災地支援トピックスー7

NO7-1

## 「秋田お出かけ支援 6月4日、9月17日、12月3日に「がっこ茶っこの会」開催



秋田県避難者支援室の企画で、福島から避難してきてる方々の集まりに、パドラーズが送迎のサポートをしました。会員も参加して交流を深めました。

## 「被災地お出かけ支援 6月25日～28日ー1」



6月25日ーノ関のまきばの湯に南最知仮設の方々をお連れしました。お湯に入って高原のさわやかな空気を吸った笑顔が素敵でした。



6月26日は男性陣のまきばの湯でした。前日参加された女性陣から差し入れと見送りです。



南最知仮設住宅の風景です。地元ボランティアの村上充さんからの紹介でこの仮設の方々と知り合いになり、今後も機会を作っておじやましたいと思いました。



## 「お出かけ支援 6月28日ー2」

唐桑半島に行ってきました。近くに居ても久しぶりの方が多く、散歩道を回りながら思い出話に花を咲かせていました。眼下には太平洋が見えます。



半島の先端には一千年の歴史をもつ、大漁祈願、航海安全の御利益の御崎神社があり、静かに手を合わせる皆さんです。昼食は気仙沼湾を、大島を望むスカイピアのレストランで頂きました。





26年度

# 被災地支援トピックスー7

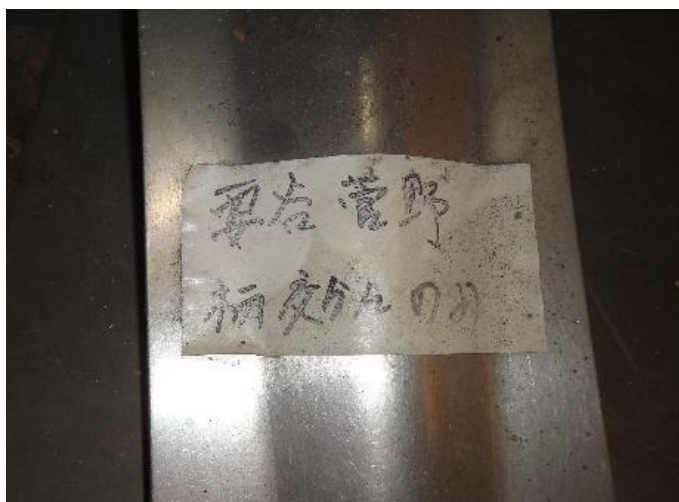
NO7-3

クワ物語 6月29日



陸前高田の高橋さんから畑作りに鋤が不足しています。秋田の方で畑作りを辞めて不要になったものが手に入りませんかと言われました。気仙沼でも鋤の要望など有りませんでしたので、直ぐには思い付きませんでしたので後日情報を集めてみますと帰路につきました

一関市に向け走行していた所「あ・鋤の看板あった」と助手席の木村さんの声。直ぐにUターンし工場の前に立ち看板を確認「夫婦岩鋤製造卸」の文字。早速工場に入り鋤の現物を見せて頂きました。



長年近県の土地に合った鋤を製造しており、カタログには形の違う種類が掲載されていました。丁度土間に2、3種類の鋤が有ったので「これは・・・」「それはだめです」とちょっと語気が強く返ってきました。「それはお客様の修理、柄を交換したもので」と、そして「3月11日に陸前高田の金物屋さんへ送る手配をしたものです」と。「梱包もしてて、4時頃に集荷に来るのだった」聞いてて返す言葉が出て来ませんでした・・・。

依頼主の陸前高田の金物店さんが被災し鋤の所有者も分からないので返却出来ず、ここに置いているとの事でした。鋤を良く見ると所有者の苗字と地区らしいものが書かれていました。この度の震災(津波)では多くの人命そして財産、思い出が失われました。ガレキ片付けのボランティア活動で持ち主に届けたい写真、思い出の品を多く目にしましたが、当時は叶いませんでした。「鋤」を届けたい・・・時間が掛かっても。今その思い出一杯です。